

13:15-13:20 開会挨拶、開催趣旨説明

13:20-15:00

学位授与制度の30年——

「学士取得者に対するフォローアップ調査2022」から

13:20-13:40 「学位授与制度の30年」

吉川 裕美子 研究開発部教授

13:40-14:00 「学士取得者アンケートからみた
学位授与制度の意義」

齋藤 崇徳 研究開発部助教

14:00-14:20 「生涯学習としての学位授与制度の
利用者の分析」

李 敏 研究開発部教授

14:20-14:40 「これからの学位授与制度」

濱中 義隆 国立教育政策研究所

高等教育研究部長・機構客員教授

14:40-15:00 質疑応答

大学改革支援・学位授与機構が実施する学位授与事業は、令和3年度に30周年を迎え、高等教育レベルの学修を積み上げた6万人以上の学習者に、学士の学位を授与してきました。他方でこの30年の間に、日本社会における高等教育は拡大し、変化しています。

機構が学位の授与を継続し、さらに発展させていくために、これまでの学位授与事業を振り返り、今後の課題を明らかにします。

15:15-16:55

「評価疲れ」を超えて——

これからの大学評価について考える

15:15-15:25 「趣旨説明 なぜ今『評価疲れ』か」

渋谷 進 研究開発部教授

15:25-15:55 「『改革疲れ・評価疲れ』と大学」

金沢 創 日本女子大学副学長

15:55-16:15 「『評価疲れ』測定尺度の開発」

市村 賢士郎 研究開発部准教授

16:15-16:35 「学生から見た『評価疲れ』」

山村 太一 学生団体 GEIL OB

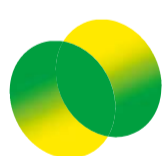
一橋大学法学部 2年

16:35-16:55 総合討論

モデレーター 畠田 敏行 研究開発部教授

16:55-17:00 閉会挨拶

大学にとって、評価を通じて教育研究活動の改善を行うことは不可欠ですが、「評価疲れ」「改革疲れ」といった批判にも真摯に向き合う必要があります。評価疲れが生じる要因を可視化する尺度を示し、これからの大学評価を有効に機能させるための方向性を議論します。



独立行政法人

大学改革支援・学位授与機構

National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education

これからの 大学評価と 学位授与に向けて

大学改革支援・学位授与機構研究報告会

当機構では機構の実施する事業の基盤となる研究及び事業の検証に関する調査研究を行っています。この度、令和3年度から実施している研究プロジェクト2課題についての研究報告会を開催します。

日時 令和6年3月15日(金) 13:15-17:00

大学改革支援・学位授与機構 竹橋オフィス
(学術総合センター 11階) 1112会議室
〒101-8438 千代田区一ツ橋2-1-2

<https://www.niad.ac.jp/access/>



当日参加希望者については、定員に達し次第、締め切らせていただきます。

当日ウェブ配信は行いません。

お申込みいただいた方に後日動画配信を予定しています。

<https://www.niad.ac.jp/event/event2024/20240315.html>

対象者 高等教育研究者、高等教育教職員、官公庁
機構での学位取得者

参加費 無料

3月12日(火) 登録 〆切

参加登録



大学改革支援・学位授与機構管理部総務課
研究支援・広報戦略係
krskikak@niad.ac.jp